

基督略伝

ウヰリヤム・インブリー

020588-000-8

特53-470

基督略伝

ウヰリヤム・インブリー/著

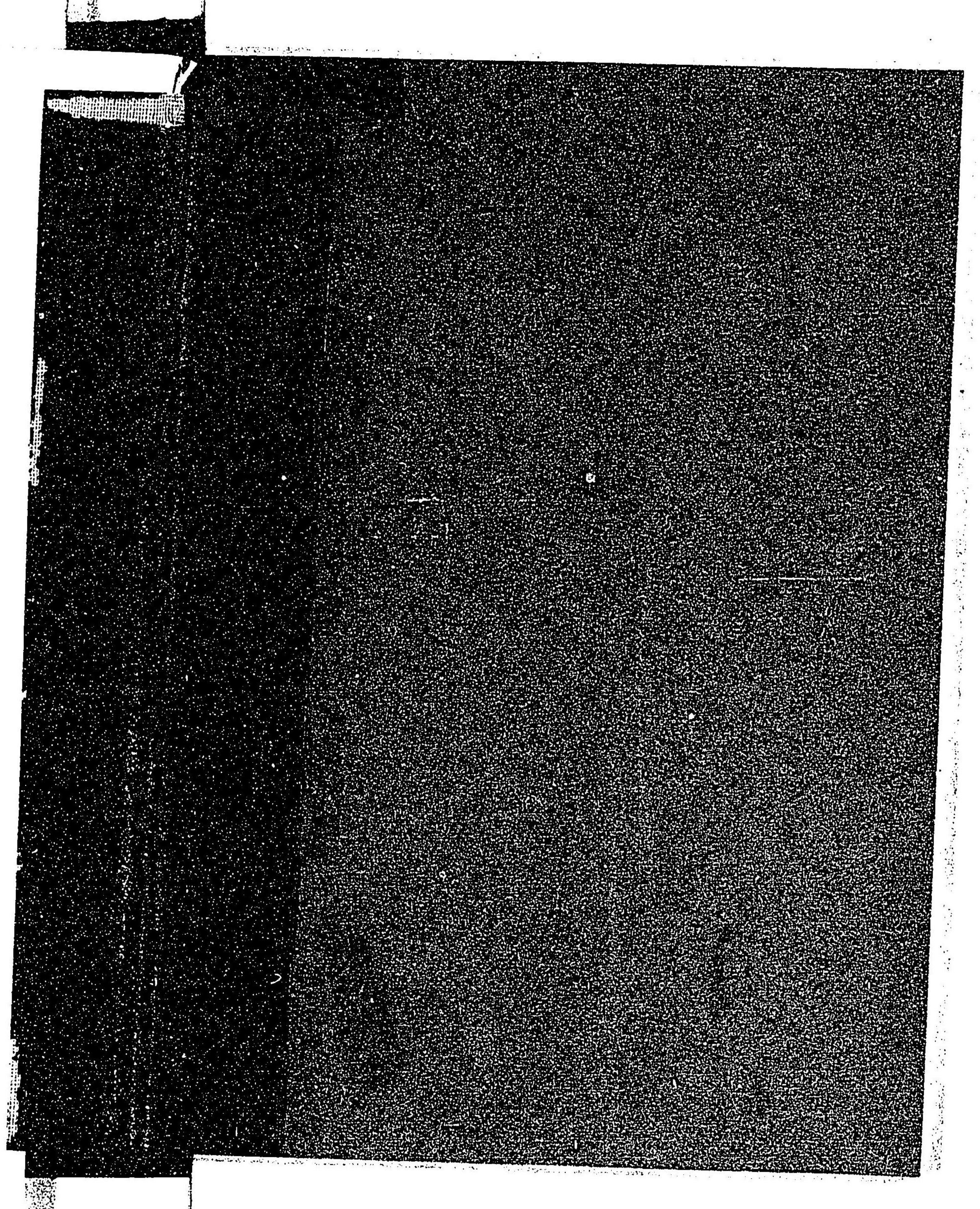
M35

ABI-0403



特5

4



R-35

114
750

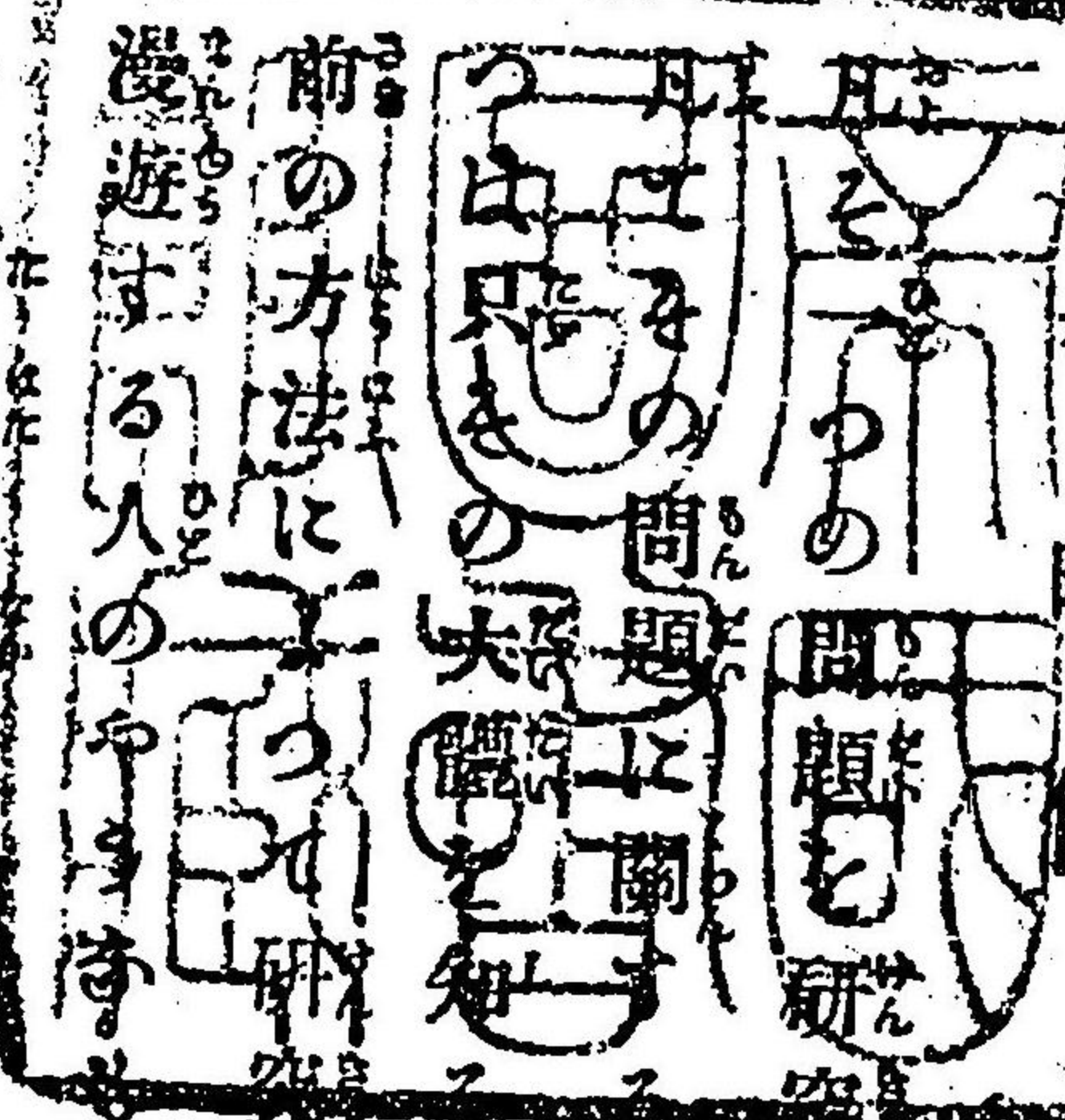
The Life of Christ on Earth

William Inbrie

基督畧傳

ウヰリヤム・インブリー著

基督傳



するの二つの方法が
一切の事柄を詳に調べること、今一
ことである。



前の方法に「ついでに」
漫遊する人のやうなものである。街道もあるけば海岸もあるき、田畑の中もあるけば林の中もあるくといふやうに親しくその地方を踏んでみる中に自然その地理に明るくなつて来る。之に引反へて後の研究法による人は高山に攀登つて四方を眺める人のやうなものである。固より山の頂き

我等の中に篤く信ぜられたる事を始より
親しく見て道に役へたる者の我等に傳へ
し如く記載し多の人々これを手に執れ
る故に貴きテロロ我も始より諸の事
を詳細に考究すれば次第をなして汝に書
おくり汝が教へられし所の眞實を曉らせ
んと思へり

から見下しては下で人が仕事をして居る所や子供が遊んで居る所や庭木に花の咲いて居る所杯は見えないが併し其處から四方の地勢を一目の下に見るときは何しても他の方法では知るとの出来ないことを知るとが出来る。さてキリストの御一代の事を研究するのも矢張この通りである。それゆゑに私共も是より高處に登つて遙かにキリスト御一代の大略を眺望て見ませう。

イエスは三十歳になるまでガリラヤの山間なるナザレ村に住居たまふた。この三十年間の事は詳しくは分らぬが只智慧も齢も彌増りて神と人とに益す愛せられたりと記してある併しその三十歳になりたまふた時ユダヤの曠野に

ブテスマ、ヨハ子といふ人物が現出た。彼はユダヤ人の睡眠を醒すべき呼號の聲、彼等に約束のメツシヤを差示す爲の食指であつた。ヨハ子が今現はれたのは即ちイエスが公然世に出で、教を宣ふべき時節が到來したといふ暗號であつた。それゆゑにイエスは今蹶然立つてナザレを辞しヨルダン河邊を指して出立したまふた。彼處に於て聖靈彼の頭上に降り同時に天より、是れ我が愛子なりといふ聲があつた。且ヨハ子は彼を指して彼こそ我が曾つて言ひし人なりといふた。

イエスはバプテスマを受けてから直に曠野に往て惡魔の誘惑を受けたまふたが是はその大仕事を始るに必要なる

經驗であつた。誘惑が濟でから暫時ガリラヤに歸りたまふたがその時或人の婚筵に於て水を變じて葡萄酒と爲たまふたことがある。之によつて弟子等の信仰を強め且自らの榮光を彰はしたまふた。

何故にイエスは暫時故郷に退きたまふたかとなればそれは逾越節の來るのを待つためであつた。毎年逾越節にはエリヤガリラヤはいふに及ばず世界各国に散在して居るユダヤ人も大抵上京するのでエルサレムは人を以て溢れるばかりであつた。イエスが自らを國民に顯はすには是れ程好機會は無つた。それゆゑイエスは逾越節の近くを待つて上京したまふた。

エルサレムに到着して第一に爲たまふたとは聖殿を潔むることであつた。即ち聖殿に上り牛羊鴿を賣る者と兩替する者の坐して居るのを見て、繩を以て鞭を作り、彼等と牛羊を聖殿より逐出し兩替する者の金を散し其案を倒し鴿を賣る者に向つては、此物を取り去れ、汝等我が父の家を商賣の家と爲すべからずと言たまふたが此事は大なる感動を興へた。有司はイエスに對つて汝は何等の權能を以て此の如き事を爲すかと迫つたけれども普通の人はその奇跡を見て信じた者も多くあつた。

此時のイエスの舉動によつて大に心を動かした者もあるとはあつたけれども未だ眞に國民が心服した譯ではなかつた。

つた。有司も未だ公然とはイエスに反對はしさいが既に反對の火が燃上りかけたことば明白である。彼のユダヤ人の宰ニコデモが夜イエスを訪問したのは決して偶然ではない。且人民がイエスを信じたといふのも畢竟彼等が待望んで居つたメツシヤ即ちダビテ王国の再興者が遂に出現したと信じたといふ丈のことで、決して眞の信仰ではない。それ故にイエス自己を彼等に托せずは彼等の心中を知ればなりと記してある。

それ故にイエスは此後間もなく都を去り七八ヶ月の間近傍の地方に寄留たまふた。何故に直様ガリラヤに歸つて宣教を始めたまはなんだかとなれば其には二つの理由があ

つた。第一ユダヤは國民的生活の中心である。其處には首府もあれば神殿もあり、一國の代表者は大抵其處に住つて居る。それ故に今エルサレムに留るのは徒らに衝突の時機を早める憂があるが責めては今暫時その附近の地に留らんと欲したまふた。是れその一つの理由である。併し此に今一つの理由があつた。それはユダヤの地に留ればパプテスマヨハ子の宣教と一層密接なる關係を保つことが出来た。そうして六ヶ月余の間イエスとヨハ子とは殆んど相並んで立て居つた様なものであつた。二人共に同バプテスマを施し尤もイエス自ら之を施したまふたのではなく弟子等が施したのである。二人共に天國は近けり悔改めよといふ同

一の使命を傳へ、ヨハチはイエスを指して世の罪を任ふ神の羔を見よ、我が言しは即ち此人なりと言ひイエスはヨハチを指して彼は即ち我が證人なりと言たまふた。然るに其後久しからずしてユダヤを去りたまはねばあらぬ事情が起つた。それは即ちヘロデ王の爲にヨハチが獄に投せられた事とイエスの勢力が漸く盛になつて來るにつれてパリサイ人の反對が烈しくなつて來た事である。それ故にイエスの弟子が増加してヨハチの弟子よりも多くなつたといふことがパリサイ人の耳に入つたといふことを聞いてイエスは再びユダヤを去つてガリラヤに引揚げたまふた。ユダヤとガリラヤの間にサムリヤが狭まつて居るが

サムリヤの賤女に逢ひヤコブの古井の傍に坐して彼の驚くべき永生の話を爲したまふたのは即ち此時である。遠く都の勢力を離れて一たびガリラヤに歸りたまふや人は熱心にイエスを歓迎した。約翰傳にはガリラヤの人々を彼を接へたりとは先に節筵の時イエスのエルサレムにて行ひし凡ての事を彼等もその節筵に往て之を見ればなりとあり、路加傳にはイエスがガリラヤに歸りしに其聲名普く四方の地に廣まりぬ、斯て彼等が會堂にて教を爲し凡ての人々に榮を得たりとあり、馬太傳にはイエスがガリラヤを遍く巡り其會堂にて教を教を教を教を宣傳へ且民の中なる諸の病諸の疾を醫しぬ、しかしてガリラヤデカポリ

スエルサレムユダヤヨルダンの外より多くの人々來り従ふと書てある。是は注意すべき事柄である。かくの如くイエスの宣教中に人民一般に大に歸依した時期もあつたのである。馬太傳にも路加傳にも約翰傳にも皆其事が特に書してある。およそイエスの行きたまふ所は市街でも村落でも路傍でも山中でも湖邊でも如何なる處でも朝より夕に至るまで大勢の人々がその跡を慕ふて來て病を醫され且神の言を聞かうとした。その光景は實に盛であつた。四ヶ月立つて再び逾越節が來た、それゆゑイエスは再びエルサレムに上りたまふた。前年入京したまふ時には未だその名聲も高くなかつたが今では萬人の視聽悉くイエスの

一身に集るといふ勢であつた。人々も此節筵には必らずイエスが上京したまふであらうと待設けて居つたが頓てイエスは上りたまふた。そうしてペテツダの池畔に於て跛者を醫したまふた爲にその評判は一時にバツト世間に廣まつた。然かも只奇蹟を行ふたばかりでなく其れに續ひて自己の品性に關する極めて深奥なる教を宣べたまふた。即ち我は神の子である。我に従ふ者は窮なき生があると宣べ、その證據としてはバプテスマヨハネの證明を引き且自己の慈愛の行爲教訓及び完全無欠の性質を指示したまふた。又汝等聖書を研究せよ聖書は我に就て證をなすものであると告げたまふた。

然しながら此第二の入京も有司學者等をして歸依せしめ
 ちかつた。彼等は斯様に論じた。イエスは安息日に跛者を醫
 した。自己を神と同等の者とした。彼は尊敬せざるではない、
 當に死刑に處せらるべき者であると言ふた。第二の入京は
 只有司學者等をして歸依せしめなかつたばかりではなく、其
 結果は反つて熊蜂の巢を突壞した様であつた。此以後は只
 エルサレムに於てイエスを殺害せんと謀るばかりでなく、
 ガリラヤまで追躡て組織的に反抗運動をする様になつて
 來た。そうしてそれが爲にイエスは一年許後にガリラヤか
 らも追出され、終には十字架に釘られたまふたのである。
 イエスが一たびガリラヤに歸りたまへば又數多の人々が

附従つたが彼等は既に三種類に分れつゝあつた。第一イエ
 スの奇跡を見て何も分らずに只無闇に附従つた連中があ
 り、次には他の點に於ては何であらうともイエスは到底彼
 等の冀望した卒先者では無いと決心しかけた連中、其次に
 は未だ少數ではあるけれども次第に増加しつゝあるイエ
 スの弟子等があつた。其中でも重立たものはイエスに撰拔
 せられて一層親密の交際を許された十二人であつて、彼等
 こそ他日その使者となつて天下に福音を宣傳すべき人物
 であつた。此の如く茲に三種類の人物があつたけれども孰
 れも皆イエスの宣たまふた天國の何物たるを理會せざる
 輩であつた。それ故にイエスは今天國とは如何なるもので

あるかといふことを説たまふたが其最も著明なる例は山上の教訓である。

然しながら愈よ明白に説けば説く程有司學者等の反對は激烈になつて來た。そうして彼の啞の惡鬼に憑れた人を醫したまふたのを見てイエスは惡鬼と同盟して奇跡を行ふ者である。と公言するに至つた。此攻撃に對してイエスは大に警戒の意味を含んだ答をあし且此より以後はその教訓の方法を一變して専ら比喻を以て説くことと爲給ふた。此比喻といふものは味方には眞理を教へ敵には之を隠す方法である。それ故に弟子等が來て汝何故に比喻を以て語りたまふやと尋た時にイエスは答へて汝等には天國の奧義

を知ることを與へたまへと彼等には予へたまはざればなり。是れ我が比喻を以て語る所以なりと曰たまふた。

斯て又一年立て三たび逾越節が近づいた。然しながら前に得策であつたことも今では不得策になつた。何あればパリサイ人の反對が激烈になつて最早入京したまふことは危険になつた。唯エルサレムばかりでなく、ユダヤ一圓に危険になつた。何なればユダヤ人は絶えずイエスを殺害せんと機會を窺ふ様になつた。實にユダヤばかりでなく、ガリラヤも去りたまはねばならぬ時が近きつゝあつたのである。其處でも衝突の機が迫りつゝあつた。それ故に爲すべき事は速かに爲了る必要が迫つて來た。

さて此急場に應ずる爲にイエスは一つの新手段を取りたまふた。それは十二弟子をしてその事業を補佐せしめたまふたことである。先づ彼等に病を醫すの異能を授け、之れを二人づゝに分ちガリラヤ全國を巡回して天國の福音を宣傳しめたまふた。弟子等は歸つて來てその行たことを告げ、實に歡喜に堪へなかつた。けれども彼等の成功は少しもイエスの眼を眩惑さなかつた。イエスはガリラヤに於る事業も殆んど終つたことを熟知したまふた。唯一つ殘つて居たことは自らを明白に顯はすこと。即ち曾てエルサレムに於て告げたる如く明白に自らの何たるを告げたまふことであつた。

之かして其機會が間もなく到着した。十二の弟子が巡回傳道から歸つた時イエスは彼等どもに休息する爲に暫時湖の彼岸に退きたまふた。然るに人民もその後を追ふて付て來たゆゑにイエスは奇跡を行ふて五千人に糧を與へたまふた。群集は此奇跡を見て一も二もなくイエスを推してユダヤ國王に戴かんと運動し始めたが今こそ明白に語りたまふべき機會であつた。それ故に翌日今一たびカペナウムカペナウムの會堂に入つて大勢の聽衆に教を宣べたまふた。是れぞガリラヤの會堂に於る最後の説教で、未だ曾つて斯くの如く明白に説きたまふたとはなかつた。

イエスは今ガリラヤ人に自らの何者たるを告げたまふた。

我は天より降りたるパンである。我は生命のパンである。我を信する者は窮なき生命を受る。汝等が我に従ふは唯壞果るパンのためである。汝等は宜しく壞果ざるパン即ち天より降つた眞のパンの爲に従ふ筈であると告げたまふた。此説教の結果は忽地顯はれた。之を聽た人々は忽地二種に分れた。一種の人は之に由つてキリストの中に永生の本源を發見したが他の一種の人には全く蹟の石となつた。ペテロは主よ我等汝を離れて誰に往んや汝は窮なき生命の言を有てり汝は活る神の聖子なりと告白したが他の人は怨言て此は甚しき言なり誰か能く之を聞かんやといふた。弟子の中でも此の言を聞てから返去つて再びイエスと偕に

行なかつた者が多くあつた。そこでイエスは曾て多くの奇跡を行ふても罪を悔改ない邑々を責めたまふた。嗚呼禍なる哉コラジンよ、嗚呼禍なる哉ベツサイダよ、既に天にまで擧られしカペナムよ、又陰府に落さるべしと責めたまふた。是れガリラヤに於る宣教の結果に關するキリスト自身の御意見であつて是は此時の宣教の終に發せられたる御言である。

是でガリラヤ宣教は殆んど終つたが只ツロシドンに接する北方の一部と湖の東岸にある半異邦人の住で居る地方が洩れて居つた。それ故に今イエスは此方面に向ひたまふた。然し此時の宣教は廣く人民に教を説くのが目的ではな

く、時に十二人に教訓を授る爲であつた。且その教訓の趣意も一變した。最早天國に關する一般の眞理ではなく、一の新しい奇妙な事を説き始めた。自ら苦難を受け殺害せられ墓の中より復活すべきことを説き始め給ふた弟子等は此新しい教訓を聞いて恐怖と驚愕に耐へず、ペテロは主よ此の如きは決して汝にあるまじき事であると言言した。そこでイエスはペテロヤコブヨハ子の三人を携へて或山に登つて其處にその榮光の貌を示したまふた。且彼等は其處で古への聖人等も早く既にエルサレムに於て起るべきキリストの死に就て考へつゝあつたことを悟り又天より是れ我が愛子なり汝等彼に聞けよと

の聲を聞いた。

イエスは最後にガリラヤを辭する前に暫時の間會て宣敎した地方に歸りたまふた。然し今度の旅行は全く微行で人に知らるゝことを欲たまはなかつた。馬可傳には其理由が記してある。そは其弟子に教へて人の子は人の手に付され彼等に殺され、殺されて後第三日に甦るべしと曰たまへるが故なりとある。

最早ガリラヤ宣敎は終り尙残れるは逾越節のとき首府に於て自らを國民に顯はしたまふことであつた。然しながらそれには未だ五六ヶ月間があつたが此五六ヶ月は大抵サマリヤとヨルダン河の東の地方に費したまふた。そうして

此時はその最も慈愛の行をなしたまふた時で此時の如くにその宣敎の恩寵と眞理を以て充滿したることはない。彼の十八年大患に罹つて居つた女に對つて女よ汝はその病より釋されたりと云たまふたのは此時である。又腹脹を患ふた人を醫し、さうして安息日に醫すは宜きや否やと問ふて反對者を沈黙せしめたまふのも此時である。又遙かに立つて主イエスよ我等を憐みたまへと叫んだ十人の癩病人を醫したまふたのも此時である。又彼の大なる筵を設けて大勢を招いた人の比喩も、不義なる番頭、辛抱強き寡婦、祈禱の爲に神殿に登つた税吏とパリサイ人、迷つた羊、失ひたる金子、放蕩子の比喩等も此時である。さうして此時の状態を

指して税吏と罪ある者どもイエスに聽かんとて近寄り、と記してある。

此數ヶ月間に衆人の注意を惹く爲、又他日エルサレムに於て最後に自らを顯はすの準備として一の新手段を取りたまふた、それは七十人の弟子を撰んで自ら將に行んとする邑々に派遣したまふたことである。此等の七十人は四方に出で行つて神の國は汝等に近けりと布告した。此時期にキリストは二次エルサレムに上つて自らを顯はしたまふた。一次は構廬節の時、一次は掃殿節の時であつた。尤も反對が餘り烈しくなつた時には一時その勢を避けたまふたが二次とも自らに就て明白に語りたまふた。即ち我と父とは一つ

であると言ひ我は生命の水である、世の光であると言ひ且
 都門を去る遠からざる場所に於てラザラを甦らせ此奇跡
 に由てエルサレム中を動搖せしめたまふた。
 凡て此等のことは全く無効ではなかつた。大勢が彼を信じ
 たといふことが二次記してある。然れども結局無効に属し
 た。イエスの教と有司學者の教とは水と火の如く相容るゝ
 ことが出来なかつた。キリストの教は天より出て天に属し、
 彼等の教は地より出で地に属した。もしもキリストの説た
 天國の教が人民の中に行はるゝならば、もしも社會がキリ
 ストに従ふならば彼等の教は衰へなければならぬ。従つて
 國民の元氣が衰へるであらう。祖先以來の國民の希望も水

泡に歸し國民自ら衰へてしまふであらうといふのが祭司
 長カヤバの議論であつた。故に國民が亡るよりも一人が亡
 る方が得策であると考へた。そうして此日からは絶えず何
 かしてイエスを殺さうと計略を廻らした。然しその計略を
 實行するのには何しても公然衝突せねばならぬ様になつ
 た。

兎角する中に越逾節が近づいた。そうして國中至る處此節
 に登る旅客の隊伍を以て充満さるゝ様になつた。キリスト
 はそこで此等の一隊の先に立つて公然と入京したまふた。
 市中に居つた人々もキリスト來りたまふと聞て各々手に
 櫻欄の葉を有て迎へに出で「ホザナ」と叫んだ。橄欖山の麓に

達した時分には大勢の弟子等は歡喜に堪へず大聲を揚げて神を讚美した。すると神殿の内に居つた子供等が其調子に應じて「ホザナ」と叫び出した。其時の光景といふものは若し人が沈黙して居れば石瓦が叫出さんするばかりであつた。此くの如く子供の謳歌群衆の喝采と周章狼狽爲す所を知らなかつたパリサイ人の忿怒の中を通過してキリストは肅然として父の家なる聖殿に凱旋したまふた。しかして警者と跛者との己に來れる者を醫したまふた。

此時から彌有司學者との衝突が公然と始つた。此衝突は二日間續いたが彼等を説諭するの冀望が全く絶果たどきにキリストは少しも憚る所なく彼等の罪惡を非難したまふ

た。彼等は即ち行くといつて行かざる者である。故に稅吏と遊女等は彼等よりも先に神の國に入るであらう。彼等は主人の僕を打擲しその子を殺害せんと欲する惡き農夫である。故に神の國は彼等より取られて一層勝れる者に予へらるゝであらう。彼等は薄荷苗香馬芹の十分の一を納め偽はつて長き祈禱を爲すけれども義と仁と信とに就ては更に頓着せぬ。人の前には義人の様に見ゆるけれどもその内心は不義淫欲を以て充満て居る。彼等は盲目なる案内者、白く塗たる墓である。嗚呼禍なる哉偽善ある學者とパリサイ人よ。嗚呼エルサレムよエルサレムよ。預言者を殺し汝に遣はるゝ者を石にて撃つ者よ。母鶏の雛を翼の下に集る如く我

汝の赤子を集めんとせしと幾次ぞや。然れども汝等は好まざりき。視よ汝等の家は荒地となりて遺されんと嘆息したまふた。斯くの如く公然と彼等の罪惡を責めてからイエスは神殿を出たまふたが、實に世界の歴史に於て此くの如き悲哀なる話はない。彼等は千年以來救主の臨りたまふを待つて居つた。然るに遂に其救主の臨りたまふた時に彼等は之を知らなかつた。彼己の國に來りしにその民之を受ざりきとある通である。斯くていよく最後が近付た。此後十二人どもに橄欖山上に一夕を送り又エルサレムの或樓上に於て弟子等と共に最後の逾越節を守り且自今以後永く我が紀念としてパンを食ひ葡萄酒を飲むべしと命じたま

ふた。まかして此時からイエスが豫て屢々言りたまふた所の不思議な時刻の鐘が鳴はじめた。是までイエスが辿りたまふた嶮岨山路が俄然に死の蔭の谷底に向つて下り始めた。

有司はイエスを殺す計略を定めた。けれども節の後に實行する目算であつた。何あれば若し節の中に實行する時は人民の中に騒動が起る恐れがあつた。それ故に節が終つてから隠に殺してしまをうと巧んだ。然しそう甘くは往かぬ。救世主たる者は片隅に殺さるべきでない。神の羔は逾越節の日に殺されなければならぬ。それ故にイエスは只一言を以て有司の此計略を水泡に歸せしめた。その一言とは

ユダに對つて汝爲さんとする事を速かに爲せと言たまふ
 ことであるが此一言に由つて彼等の隠謀が既に露顯した
 ことが明白であつた。そこで有司は是非共即坐に彼等の計
 略を實行するの必要に迫られた。此場合になつては猶豫な
 くイエスを押片付ねばならぬ。今回も安全に首府を去らせ
 ては由々敷大事であると思惟た。

イエスを捕へた以上は死刑に處すといふことは既決の問
 題であつた。それ故に祭司長はイエスに對つて汝は神なる
 かと問ふてイエスが然り、此後汝等は人の子が天の雲に乗
 つて來るを見んと答へたまふを聞て此上の審問は不必要
 であるとした。ロマ總督に對しては強迫手段だけで足りた。

汝もし此人を赦さば汝はカイザルに不忠なる者なりと強
 迫したが總督ピラトは固より臆病者である故彼等の強迫
 は首尾能成功した。その他には唯嚮に「ホザナ」と呼號して
 イエスを歓迎した人民がある。けれども彼等に對しては唯
 イエスを侮辱して見せればそれで事足るであらうと推測
 したが果して人民はイエスの捕縛せられ有罪の宣告を受
 け荆棘の冠を被せられ兵卒に唾せらるゝを見て忽地に變
 心した否々斯くの如き人が救主であらう筈はない。長老學
 者の言ふた通である。彼は人を欺く者である。十字架に釘ら
 るべき者である。彼を除けよ。十字架に釘けよと絶叫した。
 斯くの如く此衝突は有司の勝利に歸した。國民悉く亡るよ

りも一人死するは得策である故に彼等はイエスを殺さんと欲した。しかも十字架の刑に由つてその國王たらざることを證明し且永遠にその名を汚さんと企てた。しかして人民が彼を十字架に釘けよ、十字架に釘けよと絶叫する聲を聞いた時に彼等は只己の成功したとばかり考へた。彼等の策略が十二分に成功したとばかり思ふた。彼等は自己の智謀を誇り飽まで得意であつた。けれども彼等はキリストの十字架の秘密を知らなかつた。彼等は之を惟汚辱の記號と思ひ永遠に蔑視すべきものと思ふた。彼等はその十字架より滴りたる鮮血はその汚辱を全く洗ひ潔めんとすることば夢にも知らなかつた。それ故に彼等の耳には我はわが

主イエスキリストの十字架の外に誇る所あしといふ讚美の聲の將に大海の波濤の如く起來らんとするその微音も聴へあかつたのである。

事は竟つた。數人の弟子がイエスの屍を十字架より取下して岩に掘つた新しい墓の内へ葬つた。三日間キリストは死の權に服したまふた。然して第三日に自ら預言したる如く墓の内より甦りたまふた。之に由つて死の權に打勝ち凡て信する者の爲に天國の門を開きたまふた。

復活後四十日間世に留まり多くの證據を以て己の活たることを現はし神の國に關する事に就て語り又天下萬國に往て萬民に福音を宣傳せよと命じ、彼等の上に聖靈を吹掛

け終に父の御許に歸りたまふべき時の來たどきに弟子等
 を導いて橄欖山に至り手を舉て彼等を祝福し祝福しながら
 ら彼等を離れて天に擧げられたまふた斯くキリストは彼
 等の目前に於て昇天し永遠天に在したまふのである。
 弟子等はキリストの昇天したまふた時唯茫然として天を
 仰で見居つた。然るに其處に二人の白衣を着たる人が傍
 に立て汝等ガリラヤ人よ、何故に天を仰ひで立てるや汝等
 を離れて天に擧れし此イエスは汝等が彼の天に昇るを見
 たるその如く亦來らんと云ふた。此事を證する者曰けるは
 我必らず速かに至らんアーメン主イエスよ來りたまへ。

明治卅五年三月十九日印刷

明治卅五年三月廿五日發行

著者兼
發行者

東京市芝區白金今里町明治學院内
ウヰリヤム・インブリー

印刷者

横濱市太田町五丁目八十七番地
村岡平吉

發行所

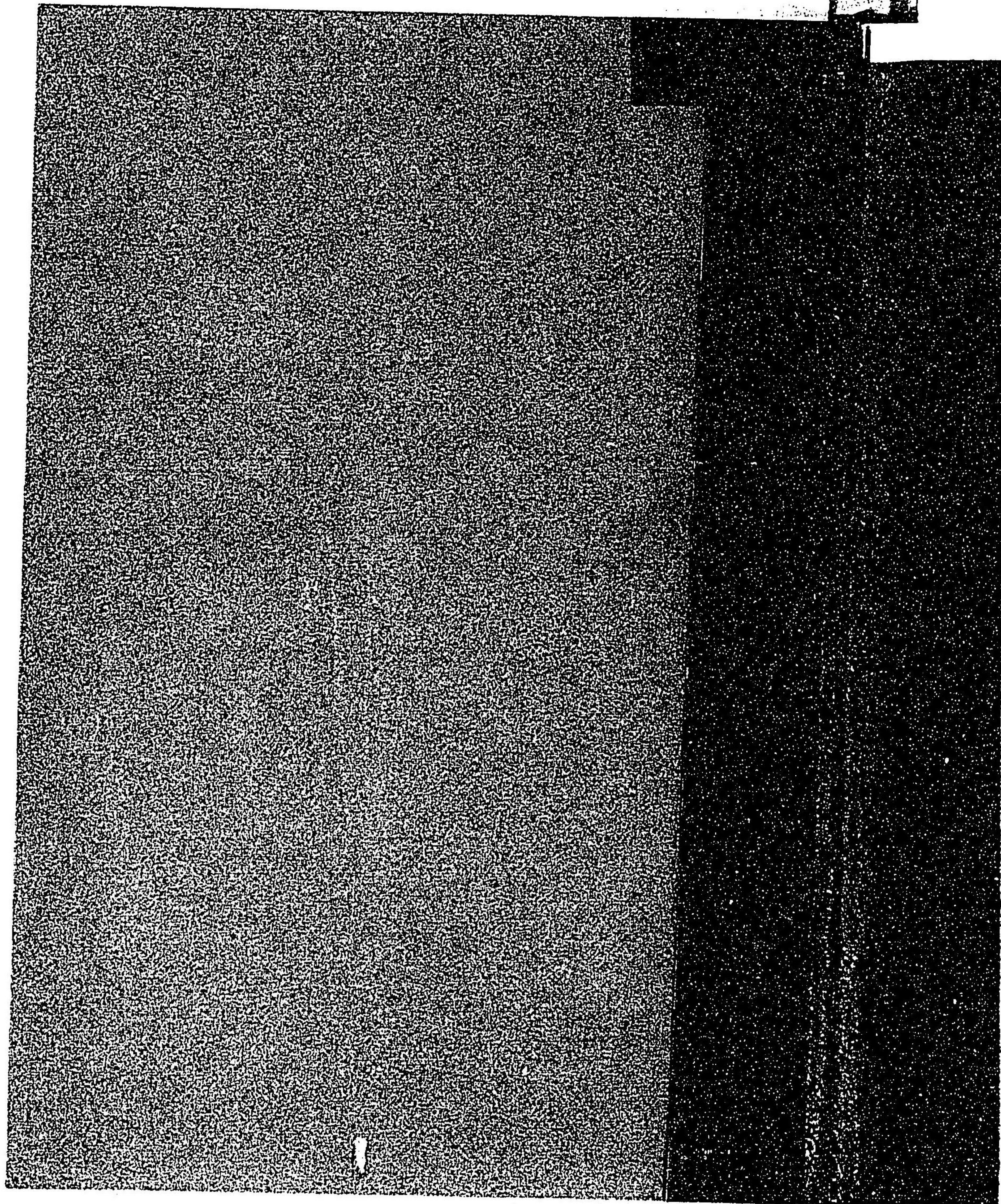
東京市京橋區明石町十七番地
基督教書類會社

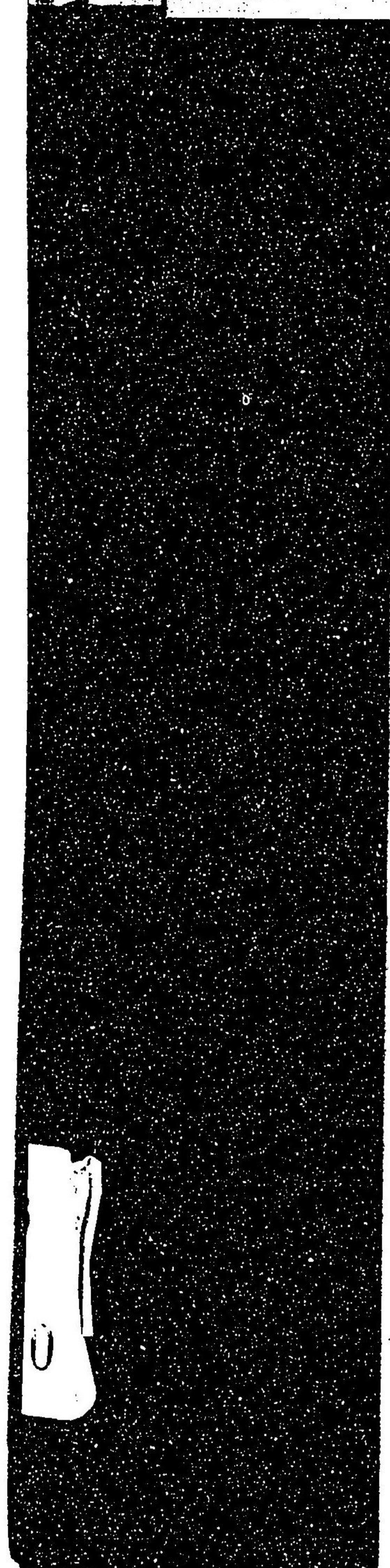
印刷所

横濱市山下町八十一番地
福音印刷合資會社

是故に我等聞し所を流過ること莫らん爲
にいらく篤く慎むべしそれ天使等によ
りて告給ひし言堅くして凡の違反さ不順
さみな正しき報を受たらんには此の如き
大なる救を我等閑にして何で道るゝと
を得んや斯は始め主によりて示されたる
を聞し者ども我等に言堅めたり

R-30





0

CONFIDENTIAL